

## ○次回定例研究会について

平成 30 年度第 1 回定例研究会を 2018 年 6 月 2 日（土）に下記の要領で開催いたします。研究会終了後 18 時 30 分より懇親会を予定しております。会員の皆さま、ぜひともご参集ください。なお、当該年度定例研究会でのご発表等に関するご要望等につきましては、定例研究会担当（阿部悟郎：gr-abe@tsc.u-tokai.ac.jp）までお寄せ下さい。

- ・ 日 時：2018 年 6 月 2 日（土）15：00～18：00
- ・ 会 場：〒112-8610  
東京都文京区大塚 2-1-1  
お茶の水女子大学  
共通講義棟 1 号館 203 教室
- ・ アクセス：東京メトロ  
丸の内線「茗荷谷」駅より徒歩 7 分程度  
有楽町線「護国寺」駅より徒歩 8 分程度
- ・ アクセスマップ：  
<http://www.ocha.ac.jp/help/accessmap.html>



### 【発表①】

#### 授業としての「体育哲学」の可能性

高橋 徹（仙台大学）

本発表では、各大学に授業科目として設置されている「体育哲学（その他別称、体育原理、スポーツ哲学、スポーツ原理など）」の授業内容の可能性を再検討したい。体育哲学の講義では、学生に何を伝えることができるのだろうか。また体育学関連科目の中で、現在、体育哲学に期待される役割とは何なのだろうか。体育哲学関連テキストを概観することを中心に、授業としての「体育哲学」の可能性を議論したい。

なお、この春に発表者が編者を務め、本領域に所属する研究者にも加わって頂く形で『はじめて学ぶ体育・スポーツ哲学』（株式会社みらい）を上梓した。本発表では、本書のねらいなども併せて紹介したい。

### 【討議企画①】

#### 体育哲学専門領域の近未来

深澤 浩洋（筑波大学）

東京オリンピック・パラリンピックを 2 年後に控え、体育やスポーツに対する関心の高まりが期待されている。しかしながら、2020 年以降にも目を向ける必要があるだろうし、昨今話題となっている様々な事柄から課題もみえてくるだろう。体育やスポーツにどのような可能性を見出し、与えてゆくことができるのか、体育哲学として何を考えるべきなのか。

本企画ではフリートークの形で様々な角度から議論してみたい。併せて、2020 年度の学会大会（国際会議を含む）の準備状況についてもお知らせする。